

(1) 適正規模について

【検討委員会での主な意見】

① 望ましい学級数について

- ・1学年複数学級あるとクラス替えができ、同一学年やクラス同士で様々な教育活動において切磋琢磨できる。
- ・クラス替えができると、児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しにくく、クラス環境が変わることにより、人間関係が豊かになることや新たな発見、学習意欲の向上が期待できる。
- ・複数学級数あれば、教員同士が、相談しながら教材研究をしたり、他の授業を見たりし、学び合うことができる。
- ・中学校では、学校全体で9学級を下回ると、全ての教科の専科教員が配置できない。
- ・中学校では、生徒数が多ければ、部活動の種類がある程度確保できる。

② 望ましい学級人数について

- ・ある程度の学級人数がいれば、多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることができる。また、多様な意見交換をすることで、切磋琢磨しながら社会性やコミュニケーション能力を身に付けることができる。
- ・学級人数が少ないと、班活動や体育の球技、音楽の合唱などの集団学習が難しくなる。
- ・学習活動において、集団の中でしっかり考え、その中で自分を表現できるようになるためにもある程度の人数が必要である。
- ・目が行き届く範囲の学級人数であることが必要である。

望ましい学級数

小学校: 1学年2学級以上
中学校: 1学年3学級以上

望ましい学級人数

小中学校: 1学級あたり20人以上

※ 小学校は「複式学級となる場合」、中学校は「全学年が1学級となる場合」には、再編等の適正化の検討を進める必要があると考える。

特に考慮すべきこと

① 地域コミュニティへの影響について

小中学校は、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っており、地域の特性に配慮するとともに、保護者や地域住民と十分な協議を行うこと。

② 多様な教育方法の検討

9年間の教育課程を見通すことができる小中一貫校の設置についても選択肢として検討をすること。